

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 九州財務局長

【提出日】 平成30年8月10日

【四半期会計期間】 第40期第1四半期(自平成30年4月1日至平成30年6月30日)

【会社名】 株式会社ヒガシマル

【英訳名】 HIGASHIMARU CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 東 紘一郎

【本店の所在の場所】 鹿児島県日置市伊集院町猪鹿倉20番地

【電話番号】 099-273-3859(代表)

【事務連絡者氏名】 管理部長 種子田 浩市

【最寄りの連絡場所】 鹿児島県日置市伊集院町猪鹿倉20番地

【電話番号】 099-273-3859(代表)

【事務連絡者氏名】 管理部長 種子田 浩市

【縦覧に供する場所】 証券会員制法人福岡証券取引所
(福岡市中央区天神二丁目14番2号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次 会計期間	第39期 第1四半期 連結累計期間	第40期 第1四半期 連結累計期間	第39期
	自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日	自 平成30年4月1日 至 平成30年6月30日	自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日
売上高 (千円)	3,135,266	2,706,661	13,551,129
経常利益 (千円)	72,873	102,917	409,437
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	24,891	61,897	131,993
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	44,751	81,652	151,068
純資産額 (千円)	6,032,864	6,193,189	6,153,882
総資産額 (千円)	12,303,851	12,530,696	11,946,601
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	5.29	13.16	28.05
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	49.0	49.3	51.4

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- 4 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、前第1四半期連結累計期間及び前連結会計年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社及び当社の関係会社において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものです。

なお、「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、財政状態の状況については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値で前連結会計年度との比較・分析を行っております。

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、雇用環境に関しては引き続き改善傾向にあります。他方、日銀短観6月調査では大企業・製造業の業況判断は2四半期連続で悪化しております。また、小売業に関しては価格競争が激しく大幅悪化となっております。

また、消費動向調査の「暮らし向き」や「収入の増え方」に関する意識指標に現れているように、消費者マインドについては、力強さを欠いた状況が続いています。このような状況が長引くなかで、小売業界における水産・一般食品のカテゴリーにおいては、その動向は低調な状況が続いており、業態を超えた価格競争が続く厳しい経営環境が続いております。

このような厳しい環境の下で、当社グループでは、「コンプライアンス経営」、「品質・安全の追求」、「研究開発の強化」、「海外市場の開拓」に取り組みました。

その結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高27億6百万円（前年同期比13.7%減）、営業利益69百万円（前年同期比11.3%増）、経常利益1億2百万円（前年同期比41.2%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益61百万円（前年同期比148.7%増）と減収増益になりました。

セグメント別の経営成績は次のとおりです。

水産事業

主力のエビ飼料類は、取引先養殖業者に大きな変動はなく前年同期を若干上回りました。海外向けに関しても堅調な推移となりました。魚飼料類は受託製造の大幅な落ち込みがあり前年同期を大きく下回りました。子会社は堅調に推移しております。

その結果、売上高は15億2百万円（前年同期比22.8%減）、セグメント利益は84百万円（前年同期比1.8%増）となりました。

食品事業

食品事業では、主力の皿うどん類及びカップ類は前年同期を若干下回りました。即席めん類、ラーメン類は順調に推移しました。乾麺では、そうめん類は前年同期を上回りました。そば類及びうどん類は前年同期を下回りました。子会社は順調に推移しております。

その結果、売上高は12億4百万円（前年同期比1.3%増）、セグメント利益は96百万円（前年同期比34.9%増）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比べ5億84百万円増加し、125億30百万円となりました。これは、主として受取手形及び売掛金が2億42百万円増加、商品及び製品が1億38百万円増加、原材料及び貯蔵品が1億76百万円増加したことなどによるものです。

負債は、前連結会計年度末と比べ5億44百万円増加し、63億37百万円となりました。これは、主として買掛金が1億55百万円増加、短期借入金が4億89百万円増加、長期借入金が1億44百万円減少したことなどによるものです。

純資産は、前連結会計年度末と比べ39百万円増加し、61億93百万円となりました。これは、主として利益剰余金が19百万円増加、その他有価証券評価差額金が20百万円増加したことなどによるものです。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

前事業年度の有価証券報告書に記載のとおり、引き続き「コンプライアンス経営」、「品質・安全の追求」、「研究開発の強化」、「海外市場の開拓」に取り組んでまいります。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間のグループ全体の研究開発費の総額は60百万円であります。なお、当第1四半期連結累計期間において当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(5) 生産、受注及び販売の実績

当第1四半期連結累計期間において、主要な販売先であるフィード・ワン株式会社に対する、養魚用配合飼料の売上高は前年同期比4億44百万円減少の42百万円となりました。これは、同社からの受託生産の減少によるものです。なお、同社においては、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」(4)主要な顧客についての項をご参照ください。

(注) 当第1四半期連結累計期間は、「第4 経理の状況」において四半期連結キャッシュ・フロー計算書を掲げていないため、キャッシュ・フローの状況に関する分析・検討内容は記載していません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	17,900,000
計	17,900,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成30年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成30年8月10日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	4,746,000	4,746,000	福岡証券取引所	単元株式数は 100株であります。
計	4,746,000	4,746,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成30年4月1日～ 平成30年6月30日		4,746		603,900		393,400

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成30年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 40,800		
完全議決権株式(その他)	普通株式 4,705,000	47,050	
単元未満株式	普通株式 200		1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	4,746,000		
総株主の議決権		47,050	

【自己株式等】

平成30年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社ヒガシマル	鹿児島県日置市伊集院町 猪鹿倉20番地	40,800		40,800	0.85
計		40,800		40,800	0.85

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成30年4月1日から平成30年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成30年4月1日から平成30年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,069,104	1,984,987
受取手形及び売掛金	1,646,410	1,889,137
商品及び製品	497,193	635,828
仕掛品	137,370	146,120
原材料及び貯蔵品	994,621	1,171,092
その他	175,648	222,467
貸倒引当金	11,718	11,594
流動資産合計	5,508,628	6,038,040
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,549,465	1,552,995
機械装置及び運搬具（純額）	718,517	772,903
土地	2,126,315	2,126,315
その他（純額）	161,346	162,410
有形固定資産合計	4,555,644	4,614,625
無形固定資産		
のれん	413,362	395,401
その他	52,226	50,231
無形固定資産合計	465,588	445,632
投資その他の資産		
投資その他の資産	1,457,244	1,472,903
貸倒引当金	40,505	40,505
投資その他の資産合計	1,416,739	1,432,397
固定資産合計	6,437,972	6,492,656
資産合計	11,946,601	12,530,696

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	700,420	856,020
短期借入金	1,924,517	2,413,642
未払法人税等	86,047	32,222
賞与引当金	155,721	107,840
その他	469,549	610,986
流動負債合計	3,336,255	4,020,712
固定負債		
長期借入金	1,678,194	1,533,777
役員退職慰労引当金	474,444	481,109
退職給付に係る負債	85,994	88,968
その他	217,829	212,940
固定負債合計	2,456,462	2,316,794
負債合計	5,792,718	6,337,506
純資産の部		
株主資本		
資本金	603,900	603,900
資本剰余金	458,400	458,400
利益剰余金	4,987,383	5,006,935
自己株式	28,968	28,968
株主資本合計	6,020,714	6,040,266
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	118,760	138,992
その他の包括利益累計額合計	118,760	138,992
非支配株主持分	14,407	13,931
純資産合計	6,153,882	6,193,189
負債純資産合計	11,946,601	12,530,696

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

	(単位：千円)	
	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年6月30日)
売上高	3,135,266	2,706,661
売上原価	2,507,345	2,070,711
売上総利益	627,921	635,949
販売費及び一般管理費		
運賃諸掛	109,001	117,331
給料及び賞与	130,259	111,498
賞与引当金繰入額	26,746	30,399
退職給付費用	4,848	8,242
役員退職慰労引当金繰入額	5,465	6,665
その他	289,050	292,164
販売費及び一般管理費合計	565,370	566,301
営業利益	62,550	69,648
営業外収益		
受取利息	295	474
受取配当金	2,034	2,498
為替差益	-	9,471
補助金収入	7,198	11,784
雑収入	10,974	15,650
営業外収益合計	20,502	39,879
営業外費用		
支払利息	4,493	3,965
為替差損	3,130	-
雑損失	2,555	2,645
営業外費用合計	10,179	6,610
経常利益	72,873	102,917
税金等調整前四半期純利益	72,873	102,917
法人税、住民税及び事業税	27,800	33,631
法人税等調整額	20,181	7,864
法人税等合計	47,982	41,495
四半期純利益	24,891	61,421
非支配株主に帰属する四半期純損失()	-	476
親会社株主に帰属する四半期純利益	24,891	61,897

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年6月30日)
四半期純利益	24,891	61,421
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	19,859	20,231
その他の包括利益合計	19,859	20,231
四半期包括利益	44,751	81,652
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	44,751	82,129
非支配株主に係る四半期包括利益	-	476

【注記事項】

(追加情報)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示しております。

(四半期連結損益計算書関係)

売上高及び売上原価の季節的変動

前第1四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年6月30日)及び当第1四半期連結累計期間(自平成30年4月1日至平成30年6月30日)

養魚用配合飼料の需要は、養殖魚の成長過程に応じ、摂餌が旺盛になる夏から初冬までが多く、水温が低下し餌食いが鈍くなる冬から春は少なくなるという季節的変動があります。したがって、第1四半期連結会計期間の売上高及び売上原価は、第2四半期連結会計期間及び第3四半期連結会計期間と比べ低くなる傾向にあります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年6月30日)
減価償却費	90,547千円	91,709千円
のれんの償却額	25,578	17,960

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年6月29日 定時株主総会	普通株式	56,461	12	平成29年3月31日	平成29年6月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成30年4月1日至平成30年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成30年6月28日 定時株主総会	普通株式	42,345	9	平成30年3月31日	平成30年6月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	水産事業	食品事業			
売上高					
外部顧客への売上高	1,946,162	1,189,103	3,135,266	-	3,135,266
セグメント利益	83,368	71,433	154,802	81,929	72,873

(注)1 セグメント利益の調整額 81,929千円は、各報告セグメントに帰属しない全社費用等であり、提出会社の管理部門に係る販売費及び一般管理費76,673千円、営業外収益2,938千円、営業外費用8,194千円であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成30年4月1日至平成30年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	水産事業	食品事業			
売上高					
外部顧客への売上高	1,502,243	1,204,418	2,706,661	-	2,706,661
セグメント利益	84,865	96,332	181,197	78,280	102,917

(注)1 セグメント利益の調整額 78,280千円は、各報告セグメントに帰属しない全社費用等であり、提出会社の管理部門に係る販売費及び一般管理費89,381千円、営業外収益12,639千円、営業外費用1,539千円であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年6月30日)
1株当たり四半期純利益	5円29銭	13円16銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	24,891	61,897
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(千円)	24,891	61,897
普通株式の期中平均株式数(千株)	4,705	4,705

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年8月9日

株式会社ヒガシマル
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 西元 浩文 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 岡部 麻子 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ヒガシマルの平成30年4月1日から平成31年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成30年4月1日から平成30年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成30年4月1日から平成30年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ヒガシマル及び連結子会社の平成30年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。